

刊行のことは

本巻には2つの特集が掲載されている。その一つは、前社会保障研究所長・山田雄三先生の「社会保障政策論ノート」であり、他の一つは去る2月に実施された社会保障研究所シンポジウムの報告・コメント・討論の全文である。山田先生の論文は「はじめに」というところでおふれになっておられるように、他の雑誌に連載されたものに加筆訂正されたものを、一本にまとめて本誌に掲載させていただいたものである。この論文の掲載にあたっては先生の御同意がなかなか得られなかったのですが、編集部が強引ともいえるべきお願いに曲げてお許しを得たものである。この点は深くお詫びをすると同時に心からお礼を申し上げなければならないと思う。なお本誌への再録を許していただいた『週刊社会保障』誌に対してもお礼を申し上げたい。このような強引ともいえるかたちで山田先生の玉稿をいただいたのは、一つには先生が過去8年間、本研究所の所長として研究を指導され、そのなかで先生がつねに強調してやまなかった政策研究における科学的立場ということをもこの論文から汲みとっていただきたいという考えによるものであった。もちろん、この論文のなかで取り上げられている論点はこれにつきるものではなく、その一つ一つはわが国の社会保障を考えるうえで、いずれも重要なものであり、参考となるところが少なくないと確信している。

つぎに社会保障研究所シンポジウムであるが、今年の第1部は「福祉政策の基本的性格」、第2部では「福祉政策と雇用問題」というテーマで論議を行なった。この主題は御存知のとおり、最近の経済政策の転換のなかで大きな論議をよんでいるものであるが、このシンポジウムでは、「福祉政策とは何か」ということを究明すると同時に、社会保障・社会福祉との係わりを明らかにしようとするものであった。限られた時間のなかで取り上げるには、あまりにも大きな課題であったが、各先生がたのお力添えで大きな成果をあげることができたと信じている。なおこのシンポジウムの報告・コメント・討論を本誌に掲載するにあたり、報告者およびコメントの諸先生がたに御面倒をおかけしたことをお許しいただきたいと思う。なお討論の部については、速記録をもとに編集部で整理をした関係で、思わぬ誤りがあるとすれば責は編集部が負わなければならないと考えている。その点、御寛容をいただきたいと思う。

昭和48年6月

社会保障研究所

